

授業概要

新しいアジア経済論を講義する。特別な経済学の予備知識がなくても理解できる講義である。アジア各国について国別または産業別に焦点を絞って講義を展開し、より深くアジアに対する理解を深めてもらいたいと考えている。急成長した国に少し遅れている国が発展するためにどのようなことが必要なことが考えてもらいたい。

アジア経済は大きな変革期を迎えている。グローバル化、経済自由化、IT革命といった国際環境目まぐるしい変化を追いながら、中国の台頭、域内相互依存の深化、人口動態、国内格差の拡大、社会問題に着目して従来の「キャッチアップ型工業化論」を刷新する。

授業計画

第1回	アジア経済論の視覚と課題
第2回	歴史の中のアジア、世界の中のアジア
第3回	アジア化するアジア—中国の台頭と域内貿易の深化
第4回	キャッチアップ再考—技術のパラダイム変化と後発企業の戦略
第5回	政府系企業、多国籍企業、ファミリービジネス
第6回	中所得国の罨—労働生産性とイノベーション
第7回	社会大変動の時代—人口ボーナス・少子高齢化・家族の変容
第8回	社会発展なき成長—格差の拡大とストレスの増大
第9回	東アジアの経済発展と所得格差
第10回	中央アジアの経済発展と所得格差
第11回	アジアの環境問題
第12回	続金融危機と国際政治の構造変化：米中関係の新展開—対立の構図鮮明に
第13回	分断と統一の政治経済学—韓国の統一政策と南北経済依存比較—
第14回	ASEAN 経済共同体の現状と課題
第15回	経済と社会のバランス、そして日本の役割
第16回	筆記試験

到達目標

本講義の目標は、アジアの人たちとかかわりを持った時、相手を深く理解し、真のパートナーとなれるよう、その基礎知識習得を行ってもらいたいというものである。

履修上の注意

この授業は、講義形式を中心とするが、受講者の主体的な参加を重視する。この授業で出るアジア地域の経済実態や課題について、質問や議論に積極的に取り組んでほしい。試験及びレポートの際に自筆のノートを参照するので、授業を欠席せずにノートをよくとってもらいたい。授業開始後30分以上の遅刻者には出席点を与えない。

予習復習

授業のレジュメを把握し、参考書の該当箇所と新聞・WEB サイトのアジア経済に関する記事をよく読むこと。配布した参考資料を読み、授業時に示す課題について回答レポートを作成すること。

評価方法

レポート(50%)と授業内テストによって成績が決まる。授業内テストは、講義で得た知識の理解度を見ると同時に、関連するテーマに関して論述する能力を見る。

テキスト

最新の情報をもとに講義を進める。だから講義の中では特定の教科書は使用しない。毎回の講義では、随時よい文献などを紹介していく。